

令和2年度 第2回魚沼市総合計画審議会 会議録

| | |
|-----|--|
| 日 時 | 令和2年10月29日(木) 19時00分～21時00分 |
| 場 所 | 本庁舎3階 議会会議室 |
| 出席者 | (出席) 1号委員 八木 由美子 2号委員 大平 妙子、三友 泰彦、井口 政秀、関 武雄、中川 久幸 3号委員 中島 拓、中出 文平、星 俊寛、大竹 芳子 4号委員 関川 正規、上村 厚男 5号委員 米山 幸子、星 勉、森山 右文 (15人) 事務局 森山 総務政策部長、五十嵐 企画政策課長、浅井 企画調整係長、 水落 政策推進係長、櫻井 主任 (5人) |
| 欠 席 | 小幡 良輔 (1人) |

(会議の要旨)

1 開 会 (19:00)

進行：五十嵐企画政策課長

森山総務政策部長あいさつ

2 議 事

進行：中川会長

(1) 総合計画審議会の進め方について

【資料A】、【資料A-2】により事務局説明を行う。

(委員)

意見等なし

(2) 第二次総合計画後期基本計画(素案)について

<事務局>

【資料No.3】前期基本計画中間検証と課題をもとに、【資料No.2】前期計画と後期計画の施策対比資料を作成した。最終的に【資料No.1】後期基本計画(素案)となる。

本日は【資料No.1】の1～17頁について説明する。次回以降は【資料No.2】及び【資料No.3】を含め、分野別の施策について審議いただきたい。

後期基本計画(素案)では、第3部「SDGs」、第4部「国土強靱化」を記載しているが、外的要因、社会情勢の変化等による内容であるので、委員からは、6分野の施策を中心に審議いただきたい。なお、第3部、第4部に対する意見については、【資料B】の意見書の提出をいただきたい。

【資料No.1】後期基本計画(素案)により事務局説明を行う。

(委員)

前期基本計画では、人口減少に歯止めをかけるという目標で取り組んできたが、人口の推移を見ると効果があったのか疑問をもつ。前期計画の反省として、施策の効果がなかったと思われるが、その点の認識はいかがか。また、後期計画も同じような重点施策となっており、歯止めがかかっているのであれば、継続して施策を進めればよいが、人口が減少していることから、施策がマッチしていないのではないか。

<事務局>

就業を機に若い世代が地域を離れるという実態はある。前期基本計画では人口減少問題を最重要課題として施策に取り組んできたが、全国的にも人口減少が続く中で、当地域も同様に減少している状況である。国は「まちひとしごと創生総合戦略」を進めるなかで、関東圏への一極集中を改善する取組をしており、市としても前期基本計画の反省も踏まえ、一番は人口減少に歯止めをかけ地域を維持していかななくてはならない。後期計画で取り組む重点施策においても、さらに内容を強化しなければならないと認識している。また、地域の魅力づくりという点では、前回会議にて、委員からは「仕事はある。しかし地域に魅力がなければ、若い人が帰ってこない」という意見もあり、若い人たちに魚沼市の魅力を感じてもらい、就学等で地域を離れても、戻ってきてもらえるような地域づくりをしなければならない。その魅力についても皆さんからご意見をいただきたい。

(委員)

後期基本計画は、そのような意向を踏まえた施策としてであると認識でよいか。

<事務局>

重点施策の内容も踏まえ、今後の6分野の内容の中で審議いただきたい。

(委員)

このような会議をして、どの程度、意見が計画に反映されるのか、他の委員も思われていることだと思う。過去の議事録にて、「熊の出没が多発していることに関する安全策を講じてもらいたい、後期計画には反映させてもらいたい」というような意見はあるが、素案をみても、一言も表現されていない。審議しても意見が反映されなければ、意味がないので、この会議の重要性を再認識していただきたい。

<事務局>

鳥獣対策の内容は「資料No.1」P27の現状と課題に表記し、認識はしている。市としても、鳥獣被害が起きない対策に取り組んでいかなければならないと考える。

(委員)

具体的な対策として、踏み込んだ計画が立てられるべきである。喫緊の問題として、早急な対策をお願いしたい。

(委員)

重点施策が前期計画の3項目から5項目に増えている。重点施策の選定と意味合い、特に11ページの記載には、政策分野を横断して重点的に取り組む、という記載があり、その辺りの意味合いを説明いただきたい。

<事務局>

重点施策は5項目で示しているが、全てに関連あるものについては、横串をさし、行

政だけでは取り組めない内容については、市民、事業所などを含め、取り組みたいと考える。

(委員)

政策分野を横断しているなら、P12は横断した形で表せるはずである。いろいろな課がまたがるということではよいのか？

<事務局>

そのとおりです。

(委員)

前期計画の重点施策は3項目であり、一番目に人口減少問題対策があった。後期計画では5項目あり、見た限り行政が取り組む全分野が入っている。これでは、重点として感じられない。特に、これからの5年間、どこに力をいれるというわけでもなく、重点が分散された感じを受ける。今の委員の質問は、重点施策が増えた理由と相互の関連性を聞いたと思われる。魚沼市の独自性はどこかにあるのか。全国どのまちでも通用するような計画ではなく、魚沼市はどこを目指すのか、誰がみても分かるように示さなければならない。少なくとも総合計画は事務事業評価のために作るのではなく、評価がやりやすいような項目だけあげるようでは意味がない。そのあたりを整理し分かりやすくしていただきたい。

<事務局>

検討させていただく。

(委員)

5つの重点施策の一番頭にきている「人口減少問題」が最重要課題であり、これを解決するための重点施策を5つ抜き出したという理解でよいのか？その場合のぶら下がりはどうなるか。

<事務局>

後期基本計画の目玉というのは、委員が言われたように、人口減少問題を対策するための施策が一番である。重点施策の中で、それだけで、以上1つです、という話となると、そこからの枝分かれが多くなり、分かりづらいという事もあり、一番大事な人口減少問題対策を第1項としたが、第2項以降については、そこに被さるという考え方もある。そのように読み取って頂ければありがたい。考え方としては、人口減少問題対策に関する施策を重点として、それぞれの分野から上げてきた結果が、この5項目となる。

(委員)

そういうことであれば、表記の仕方が変ではないか。

<事務局>

また議論をいただく中で、表記を検討する。

(委員)

11ページの第2節の重点施策の位置づけに本計画における～という記載は5項目あるが、これを全部網羅した計画ということではよいのか？

<事務局>

11ページの下で「まち・ひと・しごと創生総合戦略」がある。市としても戦略を行う中で、これらの対策がここにも出てくるという事から、併せて重点施策で表記している。

(委員)

次回以降審議の6分野の施策は、全てが網羅されており、歳入歳出の中では、投資的経費をどこに配分するか、それを決定するのが重点施策である。人口減少問題対策を最重要課題とするならば、人口問題に関する施策に重点的に投資をしていくことが分かるようにしておかなければいけない。重点施策とするからには、例えば、これが正しいというわけではないが、高齢者施策に重点をおくようであれば、若者、子どもに関しての予算は0.8掛けにせざるをえないとか、そのようにしている自治体もある。何が正しいかは、その自治体がどのようなまちづくりをするかによる。人口減少問題対策のためには、何を充実していかなければならないのかの記載が必要であり、人口減少対策に結びつくことにしなければならない。分野別の施策の中で、重点施策に関わる内容は、前年度予算を1.2倍にするなどとしないと意味がない。重点であるならば、予算または人的な強化することが必要。縦糸を分野別施策とすると、その中で必要部分に横串を通していったら、必要な分野がありました、というイメージにしないと重点ではない。何に行政資源を投入するのか、人的資源と財源があるが、他の課の人数を減らしてでも、集中的にやるというようなことも考えられる。

<事務局>

事務局で精査させていただく。基本的には全体を通した中で、人口減少対策の考え方をベースにしながら、検討したい。

(委員)

この中5項目の中で最重要重点施策はあるか。

<事務局>

全部である。

(委員)

最重点施策は人口減少問題対策として、それを補強する考えで、第1項〇〇がよいのではないか。そう考えると、1項の「人口減少問題対策」というネーミングは変更する必要がある。最重点施策とするならば、そうでない表現にし、書き換える必要があるのではないか。

(委員)

重点施策は5項目あるが、「現状と課題」をみると、3項「健康・福祉」と4項「教育の充実」については、何も謳われていない。除外してもよいと思う。他の項目にとけこませ減らすことも考えられる。2040年の人口推計を見ると、魚沼市は23,000人になる。歳入も減少する中でこれだけの施策を進めていくのはとてもできない。行政の組織と人員の見直し、住民組織の見直しに取り組まなければ追いつかない。2040年まで時間はあがるが、今から少しずつ取り組んでいかないと対応できなくなると思われる。

<事務局>

そのような点は、まちづくりの重要な課題としても認識している。整理をしながら計画に活かしていきたい。

【資料No.1】SDGs及び国土強靱化について事務局説明を行う。

(委員)

SDGsは、国際的には人口増加問題の対策としての取組と考える。持続可能なまちづくりの視点で取り組まないといけない。当市の人口減少に対する取組としては、ちぐはぐさを感じる。

(委員)

SDGsと国土強靱化は、載せる必要がないのではないか。

<事務局>

SDGsについては、今後はありとあらゆるものに関係してくるので、記載はなくてはならないものである。しかし、記載の仕方は検討する必要がある。分野別で考えていくことになるが、17の目標全てのものに関連付けなくてもよい。魚沼市に関係ない目標もある。国土強靱化についても、記載はなくてはならない。取り組むことは必要で記載の仕方は工夫が必要。

(委員)

ウイズコロナの時代では、今後どうなっていくかは誰もわからないことであるから、計画には明確にかけないと思うが、何かしらで表現した方がよいのではないか。今一番の話題はなんですか？と誰に聞いても「COVID-19」がどうなるか、だと思う。その具体的な内容がないと、後期基本計画を策定しても期待感がそがれると思う。

(委員)

分野別施策の中で審議すべきであろう。

(委員)

他になければ、市に意見がある。前期計画では、合計特殊出生率の目標を2.07で設定した。市が見込んだ人口推移は社人研の人口推計に対して大きくひらきがあり、減少に歯止めがかかっていない。現時点でどれくらい乖離しているか、実態に即した目標数値にすべきである。人口減少対策を前期計画の最大目的とすると、現状の数値は失政に近い。その部分をもう少し考えてもらいたい。

<事務局>

人口ビジョンを改訂し見直しをする。

(委員)

これからは人口減少と共に、収入も減少するだろう。危機感はみんなおぼろげに持っているが、財政が人口減少した中でどこまでできるか。できない行政サービスもでてくる。負の意見もやはり市民に周知し、市民がやることは市民がやり、行政がやることは行政がやるといった、セレクトができてくればよい。

(委員)

この会議は最上位の計画について審議している。しかし、まちの状況はよくない。夢も希望もないことをかいても総合計画にはならない。夢や希望があったとした話でなければ総合計画ではない。ほかの少し元気なまちを見れば、地域独自のものを持っている。独自性をもった計画にしてほしい。

(委員)

農業団体ではもっと厳しい状況である。人口減少はおそらく歯止めがきかない。今の

人口を維持するために、何をしたらよいかを考えていくべき。また遠くの目標と近くの目標でやらなければならないことを考えるべきである。

(会長)

委員から一言ずつ発言をいただきたい。

(委員)

アンケート結果からは、マイナスの結果が多いように受け取れるが、前向きなものを考えてよい方向に変えていけたらと考える。

(委員)

市民が見て少し衝撃を与える位の内容でもよいのではないか。インパクトを与えられるような計画としてほしい。

(委員)

重点施策をもう少し整備してほしい。分野別の施策から考えてから、大きな施策に戻るやり方もどうなのかなと思った。

(委員)

これまで取り組んできた内容とどこが違うのか。もっともなことが記載されているが、これから何をしたいのかが分からない。市民がみて、市のやりたいことが伝わらないと思う。また、人口減少の中で、少ない人口を逆手にとる方法はないか。魚沼は「マイねっと」の加入率が高い。人口減少をポジティブに考えてはどうか。

(委員)

地域のいいところ探しをしていくことで、よい方向へつながると考える。

3 その他

(1) 次回審議会 令和2年11月2日(月) 19:00～

会場 魚沼市役所本庁舎 3階 301会議室

(2) その他

4 閉会 (21:00)

以上